

1月の県内景況は、冬物の販売不振等のため「売上高」が大きく悪化するなど、低調に推移した。

情報連絡員による平成28年1月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は10.2%（前月比-6.5）となっており、「横這い」は40.7%（同+0.7）、「低調」とするところが49.1%（同+5.8）、業界全体の「景況感DI」は-39.0（同-12.3）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「雇用人員」の項目が前月と比較して好転しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、サービス業及び建設業は「晴れ」、食料品製造業、鉄工機械製造業、その他製造業、卸売業、小売業及び商店街は「曇り」、その他の業種は「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が13.6%（前月比+0.3）と増加しております（好転の回答0件、やや好転の回答8件）（製造業3、非製造業5）。また、変わらないが、62.7%（前月比+16.0）と増加しております。やや悪化、悪化の見込みは、23.7%（前月比-16.3）と減少しております。

平成28年1月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率98.3%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食料品製造	-42.86	-57.14	0.00	14.29	-42.86	28.57	-42.86	-14.29	14.29	-14.29	-14.29	-14.29
繊維製品製造	-33.33	0.00	-33.33	-33.33	0.00	-33.33	-33.33	-33.33	0.00	0.00	-33.33	-33.33
木材製品製造	-50.00	-50.00	0.00	0.00	-50.00	-50.00	-25.00	-50.00	-25.00	-25.00	-25.00	-50.00
鉄工機械製造	0.00	-20.00	0.00	0.00	-20.00	-20.00	-20.00	-20.00	20.00	-40.00	-20.00	-20.00
その他の製造	-85.71	-85.71	0.00	28.57	-57.14	-28.57	-14.29	-14.29	-28.57	-14.29	0.00	-14.29
卸売業	-25.00	-25.00	0.00	0.00	-25.00	-50.00	-25.00	-50.00	0.00	-25.00	-25.00	-25.00
小売業	-37.50	-25.00	-25.00	-12.50	-12.50	-12.50	-25.00	-25.00	-12.50	-25.00	-50.00	-25.00
商店街	-16.67	-33.33	-33.33	16.67	-16.67	-50.00	0.00	0.00	0.00	-16.67	0.00	-16.67
サービス業	-42.86	14.29	14.29	14.29	-42.86	14.29	0.00	14.29	-14.29	0.00	14.29	14.29
建設業	-40.00	20.00	0.00	20.00	-20.00	0.00	0.00	20.00	-20.00	-20.00	0.00	20.00
運輸業	-100.00	-100.00	0.00	0.00	-33.33	-33.33	-33.33	0.00	0.00	-33.33	-66.67	-33.33

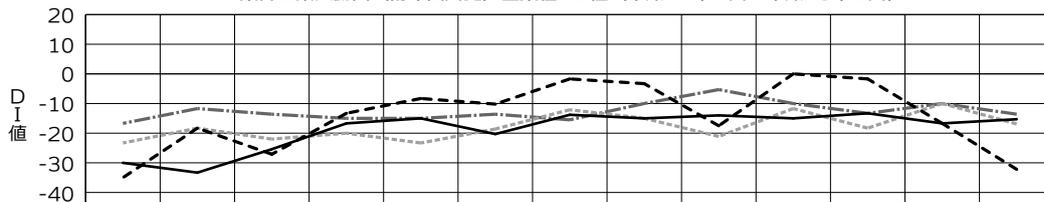
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値（D・I値）をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10~30未満
- うすぐもり -10~10未満
- くもり -30~-10未満
- 雨 -50~-30未満
- 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種DI値（平成27年1月~平成28年1月）



— 業界の景況
- - - 売上高
... 収益状況
- · - 資金繰り

	平成27年1月	平成27年2月	平成27年3月	平成27年4月	平成27年5月	平成27年6月	平成27年7月	平成27年8月	平成27年9月	平成27年10月	平成27年11月	平成27年12月	平成28年1月
業界の景況	-30.0	-33.3	-25.4	-16.7	-15.0	-20.3	-13.8	-15.0	-14.0	-15.0	-13.3	-16.7	-15.3
売上高	-35.0	-18.3	-27.1	-13.3	-8.3	-10.2	-1.7	-3.3	-17.5	0.0	-1.7	-16.7	-32.2
収益状況	-23.3	-18.3	-22.0	-20.0	-23.3	-18.6	-12.1	-15.0	-21.1	-11.7	-18.3	-10.0	-16.9
資金繰り	-16.7	-11.7	-13.6	-15.0	-15.0	-13.6	-15.5	-10.0	-5.3	-10.0	-13.3	-10.0	-13.6

食料品製造業

<漬物>

漬物業界は風評被害が大きく、全体的に売上悪化が続いている。

<味噌醤油>

相変わらず味噌醤油の出荷量は、減少しており伸び悩みの傾向が続いている。海外依存の主原料は多少価格が低下したものの、原料使用量は減少している状況。味噌の主原料である加工米は、主食米の消費減少等により、飼料用米に移行する国の政策など、使用する加工米の安定供給が今後どうなるのか不安。

<菓子>

1月は比較的売上げが少ない月だが、相変わらず厳しい運営が続いている。北海道の小豆が豊作だったことがいい材料だが、経営の改善にはあまりつながらないようだ。

<酒造>

前月同様、吟醸酒を中心に販売を伸ばしている。原料米について、福島県等が力を入れてバックアップ体制をとっている。農家への補助金等で作付けの増加が見込まれる。

<食品団地>

消費動向に大きな変化はないが、年始商品等により生産量が上がった。原油価格は下がっているが、原料等の価格高騰は続いているため各組合員企業の収益は厳しい状況が続いている。

縫製品・同製品製造業

<繊維>

冬物の販売不振の影響により春夏物の生産に作り控の動きがあり、繁忙期である2月から4月の受注が減少傾向にある。

木材・木製品製造業

<製材業>

丸太の出材供給は降雪の影響をあまり受けずに順調である。一方製材品の価格は先の需要が見通せないため、全般的に現状維持から下降気味の状況にある。このため、丸太及び製材品ともに引き合い（需要）は盛り上がり欠けている。

<外材輸入>

春先に向け不需求期であることに加え、為替円高により引合は弱く、製品相場は弱含み横ばいの状況にある。

紙・紙加工品製造業

<紙器・段ボール>

堅調感は残念ながら実感できてないのが現状といえる。多品種・小ロット受注でも売上高は何とか維持できたとしても、利益率は下降傾向にあることは否めない。

印刷業

<印刷>

業況が部分的に好転、悪化と入り混じり、見通しは不透明である。また、従来予測が成り立たなくなっ

ている。

窯業・土石製品製造業

<碎石>

(東北地区)

1. 当月売上高の前月比 約32%の減
2. 当月売上高の昨年同月比 約6%の減
3. 今年度累計の昨年対比 約19%の増
4. 原因・状況 年始休暇と積雪等により、工事作業日が少なく、碎石出荷が少なかった。

<生コン>

平成28年1月の組合員生コン出荷数量は、126,052m³と対前年同月比2.9%の減。増加地区は東日本大震災等で被害を受けた道路、建物、港湾等復旧・復興工事が主たる要因。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比8.1%の減、官公需が4.9%の増であった。

■民需の動向

対前年同月比 8.1%の減

①対前年同月比増加地区

<東北地区> 17.8%の増

病院、仲間町集合住宅、倉庫建設工事等

<相双地区> 0.2%の増

社員寮、物流センター建設工事、原発保安対策工事等

<会津地区> 11.5%の増

店舗、老人福祉施設建設工事等

②対前年同月比減少地区

<県中地区> 2.6%の減

病院建築、工場、事務所工事等

<白河地区> 30.5%の減

化学工場、店舗新築工事等

<いわき地区> 26.1%の減

工場、物流センター、マンション新築工事等

■官公需の動向

対前年同月比 4.9%の増

①対前年同月比増加地区

<東北地区> 12.6%の増

トンネル、県庁、医療科学センター建設工事等

<相双地区> 27.1%の増

減容化施設工事、LNG基地工事、トンネル、海岸復旧工事等

②対前年同月比減少地区

<県中地区> 34.1%の減

復興公営住宅、医療機器安全評価センター建築工事等

<白河地区> 48.6%の減

市民文化会館、役場、小学校建設工事等

<いわき地区> 2.1%の減

港湾災害復旧、小名浜東港関連工事等

<会津地区> 10.6%の減

滝沢浄水場工事、橋梁工事等

鉄鋼・金属・一般機械製造業

<各種プラント機器>

当組合のプラント設備関連業界は、売上高が前月比では、12%増と先月の低調さをやや取り戻した取引となり、前年同月比においても39%増に転じた。累計では、前年比9%増と3ヶ月連続の増加とやや持ち直した状況となった。

卸売業

<卸売業>

(県中地区)

消費者向けの商材については、高額商品の売れ行きが以前よりも増えてきた感がある。年明けからの株価の急落と円高が今後どのように影響するか懸念しているが、現時点では特別な影響はない。

<再生資源>

新年を迎えても、原油安・円高傾向が続き、古紙については輸出価格の低下が、国内価格に影響しはじめた。比較的安定していた古紙市況も2月以降、価格改定のアナウンスがされている。年度末に向けて更なる下げも懸念されている。鉄スクラップ市況については、依然低調であり、様子見の状態が今後も続くと思われる。

小売業

<共同店舗>

(県中地区のOショッピングセンター)

売上・客数は前年比で横ばい、前月比では悪化している。2月にはつるし雛のイベントがあるので、町内外からの来客を期待したいところ。

(県中地区のNショッピングセンター)

全体的に売上が伸びる要素に欠けている。季節的な影響もあるが、商圏内顧客の購買力が伸び悩んでいるように思われる。

<石油>

原油安により市場価格も下落となっている。しかし、競争環境の激しい地域では値下げ競争が激化し、仕入価格を下回った。非常に厳しい状況になっている。

<青果>

年明けから例年にない暖冬で、買いだめをする業者や消費者が少なく、普通なら雪下野菜として出荷する野菜も雪不足から生育不足、痛みが早いなど取扱に大きく影響した。また、西日本での積雪もあり品物によっては単価が高騰している。

今後も雪不足が続けば、品物が不足し、単価の上昇などの不安もある。来月からは雪祭りも各地で開催されるが、少しでも景気が回復することを期待したい。

<電機>

エアコンの動きが良い(暖房の強力型)。夏を中心に出るエアコンより高価のため、売上金額が上がってきている。3月、4月の合展、個展に期待したい。

商店街

<福島市>

一般的な正月休みが3日までとなり、いわゆる正月気分というもの元日で終わってしまった。3日には既に普通の日曜日という雰囲気。ただし、正月が早く終わったために、一般の地元客(帰省を迎える側)の動き出しも早く、例年と比べても程々の賑わいは保っていたような印象がある。

さて、新聞報道にもあったように、福島市の中心市街地は今後数年間で色々変化する。3年後(予定)には、大原病院が移転し、駅前通りはリニューアルされ、5年後(予定)には県立医科大学の新学部が開講する。人を集める施設が増え、通行者数も増える。今

後はそれに応えるソフト面での街づくりがより一層重要となるだろう。

<郡山市>

1月は、うすい百貨店の催事が堅実に推移したので、前月、前年比とも共同駐車場の利用が増加になったが、昨年が悪すぎたような感じがする。増加しているような感覚はないので、まだ安心できる状況ではなく、今後の2月、3月の動きが鍵になってくるのではないかと考えている。

<南相馬市>

原発関連作業員の年末年始の帰省もあり、南相馬市全体が静かな、そして低調な雰囲気が感じられた。商店街の連合売り出しもスピードくじが好評であったが、集客の面では少し厳しい状況であった。

<会津若松市>

1月10日の十日市は雨模様というあいにくの空模様であったが、日曜日ということもありまずまずの人出であった。1月全体としては暖冬の影響で降雪量が非常に少なく、お客様の冬の主力商品への購買力が低く、低調であった。

<いわき市>

今年の正月休みは短かったせいか、商店街の初売りは良くなかったと思われる。年々、年末年始の休みをしっかりと取る店舗が増え、初売りといってもインパクトはないのだが…。中頃から気温が下がり、冬物の消化が進んだように感じるが、暖冬を見越しての用意なので、売上増には結び付かない。飲食店は新年会需要で活況。来月も寒さが続くようであれば、飲食店以外は厳しい2月となりそうな予感がする。

サービス業

<クリーニング>

例年だと、年の瀬に集まった品物を1月に処理するので、少しは動きがあるが、今年はそれもなく、動きが止まり、中旬以降は閑散期ムード。クリーニング業界は厳しい環境である。

<旅館業>

(いわき湯本温泉)

一般客のほとんどは1日、2日までの宿泊だったため、1月の収益状況はあまりよくなかった。

(土湯温泉)

1/1~1/3の正月期間は、宿泊客は例年通り満室に近い入込であったが、温泉街への人出は例年になく少ない状況であった。暖冬により観光客の余暇の過ごし方、過ごす場所に変化があった月と思える。

<理容業>

どの地域からも出だしは上々との報だった。年末にやり残したお客様が年明けに来店してくれたようで、天候にも恵まれ順調なすべり出しだったが、半ばすぎからの大雪とその後も寒い日が続き、後半はどの方部からも例年通りの状況との連絡だった。大半は固定客だし、年末に調髪した人は1月中にまた来店する人は少ない。来店頻度を少しでも上げる努力をしなければと強く感じる。

<廃棄物収集運搬業>

通常業務について、1月は通常月より若干の減少となった。

震災関連事業が10月からスタートした。当初より

業務量が増加して推移している。

産業廃棄物に関しては依然として排出量は震災前の水準には届かず、当該事業として苦戦している状況。雇用の安定化を図っているが、南相馬以南の除染業務に人員を取られる状況がみられるようだ。一般の事業では太刀打ちできない金額の提示で、短期間の業務でもと転職していく。対策に苦慮している。今後の展開として電力の自由化に伴い50メガ程度の発電事業が当地区に計画されており、組合として取り組める分野の開拓に取り組んでいる。

建設業

<建設業>

(県一円)

関東・東北豪雨災害にあった南会津を除く会津方面は、震災や豪雨災害関連工事もほぼ完了し、また暖冬で除雪業務も少なく管内の事業量は前年と比較し減少しており、会津・中・浜通りの地域間格差が顕在化している。

(県南地区)

除染業務は作業が完了した地区が多くなっており、積雪で進捗が悪くなっている。一般の土木工事は減少しており、舗装工事の落札価格が厳しくなっている。建築工事は公共事業が少なく、民間の工場新設が多少あるが、一般住宅の着工は減少している。

<管工事>

前月比で給水装置工事申請が減少し、排水設備申請は増加。前年同月累計対比では給水装置工事申請が増加し、排水設備申請は減少している。

<専門工事>

全くの積雪がない年末年始となり、四季の移ろいのある地域としては非常に違和感のある年明けとなった。雪がないということは、普通の仕事が進む半面、除雪などの季節業務が動かないと言う事でもあり、地域的には決して良いことばかりではないのが実情であり、ここ近年の気象状況を考えるのであれば、そろそろ『例年』と言う考え方から離れる必要があるのではないかと感じる。

震災から5年と言う区切りや北朝鮮の水爆実験、日銀のマイナス金利の発表などにより、景気の先行に対する不安感がしみだしてきており、これらが若手の育成や業界の維持発展に対してマイナスに影響する事を懸念している。

運輸業

<トラック運送>

(県北地区)

売上は横ばいから若干減少傾向で推移しているが、燃料価格低下により収益は確保できている。

しかし、長期的には原油価格暴落の影響による経済や物流の停滞を懸念しており、今後の動向を注視していきたい。

(県中地区)

燃料価格の低下により収益状況が好転した。

<ハイヤータクシー>

天候が比較のおだやかなため、利用減となっている。